

病院 だより

企画発行 利根中央病院地域連携室
〒378-0053 群馬県沼田市東原新町1855-1
電話 0278-22-4325(直通) FAX 0278-22-4393
URL <http://www.tonehoken.or.jp/>
E-Mail master@tonehoken.or.jp

理念と方針
理念 安心と安全、参加と協同
患者中心のチーム医療
方針 ☆救急体制の充実、いつも安全確認
絶やさぬ笑顔
☆診療情報提供と共に作る診療計画
☆広げよう人と人との結びつき
すすめよう健康づくりまちづくり

新年明けましておめでとうございます
本年もよろしく願い申し上げます

より一層の地域連携活動を推進して参りますので、今後ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

当院へ患者様をご紹介していただく際に、お手数でも紹介状をいただけるよう、重ねてお願いいたします。貴重な診療情報を共有させて頂き、治療に役立てたいと考えております。治療が終了した患者様は、基本的には紹介元医療機関へお戻りになって頂く方針となっております。

地域連携に関することは、地域連携室までご連絡ください。今後ともよろしく願い申し上げます。

地域連携室スタッフ一同



謹賀新年

今号の話題

1. 安全保障としての医療 利根中央病院院長 都築 靖
2. スキー・スノーボードの外傷
 - ① 当院におけるスキー・スノーボード外傷の実態 整形外科医長 七五三木 淳
 - ② 当科におけるスキー・スノーボード外傷による入院例の検討 脳神経外科医長 笹口 修男
3. 「画論 The Best Image 2005」で準優秀賞受賞 放射線科科長 大屋 成之
4. 厚生労働大臣表彰受賞 精神科 国友 貞夫
5. 病院医療機能評価 (Ver.4) 認定される
6. 病院リニューアル進捗状況紹介 事務長 関 孝之
7. 今後の予定



安全保障としての医療

利根中央病院 院長
都築 靖



新年あけましておめでとうございます

平成18年が、利根沼田の医療のみならず日本全体の医療の改善が図られる事を望みますが、現実には甘くない様です。

今春4月の診療報酬改訂はマイナス3.16%と未曾有の大きさの様であります。患者・国民や医療機関の青息吐息が今から予想されます。

日本の医療は世界がうらやむほど高水準にあります。

WHOは日本の医療を世界第1位、アメリカの医療を第37位と評価しています。この高い評価は、日本国民が高度医療を安い値段で受けられるからで、これは医療機関の努力と犠牲の上に成り立っているのです。

このことを誰も云わないので誰も知らない。

日本は医師1人当たりの患者数で米国の4倍以上、約8分の1の単価で診療しているのです！

それでも病院は経営困難で且つ医療従事者は多忙であります。

日本の国民総医療費31兆円はパチンコ産業と同額であり、葬儀産業（15兆円）の2倍に過ぎません。それなのに何故政府は医療費を抑制するのか。100兆円の借金の穴埋めの為、国庫から出している8兆円の医療費を減額したいからです。

政府の経済政策の失敗を国民の生命に転嫁しようとしているが、これでよいのでしょうか。国民の生命と健康をパチンコ産業と同額の金額で守れとする政策は大きな間違いであります。

一方、国を守る自衛隊は27万人、国民の生活を守る警察官は26万人である。国民の生命・健康を守る医師数は26万人です。

医療はサービス産業ではない。日本人の生命を守る安全保障であると考えます。

私は年頭にあたり、「病病連携、病診連携」の大切なことは強調しますが、医療の「棲み分け」のみでは根本的解決にならないと思います。

今年から怒りを持って、もっとグローバルな哲学を持とうと思います。

病院リニューアル進捗状況紹介

事務長 関孝之

昨年11月30日、群馬県庁で「沼田土木事務所跡地」（約1,100坪）の一般競争入札がおこなわれ、利根保健生協が取得しました。これにより長年多くの地域住民・生協組合員から期待されていた「利根中央病院建て替え」の具体化の第一歩を大きく踏み出すことが出来ました。

当生協では、すでに生協役員、病院管理部を中心に「病院建設準備委員会」を発足させ、今後の利根中央病院における医療活動の基本的な構想作りについて検討を開始しました。狭い病室や外来部門の改善など、地域の皆様により安心して利用していただける病院を目指し、地域の皆様と一緒に病院づくりに取り組んでいきたいと考えています。

是非ともご指導ご協力を宜しくお願いいたします。



ATTENTION!

2月20日（月）18：30～20：00

3月20日（月）18：30～20：00

オープンCPC

於：院内研修棟・講堂

3月13日（月）19：00～20：30

病診連携セミナー

於：院内研修棟・講堂

内容 一時救急処置（BLS）について

講師 利根中央病院外科医長

関原正夫

「病院医療機能評価」 (Ver. 4.0)

認定される



事務長 関 孝之

利根中央病院は、2005年9月26日付で、(財)日本医療機能評価機構より、「病院機能評価」審査の結果、定められた認定基準を達成していると認められ、「認定証」が交付されました。

日本医療機能評価機構は日本の病院の質を評価する第三者評価制度として1997年に発足し、現在、約9,200病院の内1,771病院(2005年9月26日現在)が認定を受けています。

当院では医療の質を高め、より良い病院にするため、この病院医療機能評価を受審するべく、2001年4月より準備をしてきました。各職場で自己評価にもとづくチェック、業務改善、業務基準の見直しを進め、2004年4月に訪問本審査(3日間)を受けました。当日は7名のサーベイヤー(審査員)が来院し、地域に密着した医療などが高く評価されましたが、いくつかの改善事項が指摘され、それらを改善し、2005年7月に再審査を申請、今回の認定の運びとなりました。

この認定期間は5年間とされ、さらに医療の質の向上を図るべく、認定への中心的役割を果たした「医療の質向上委員会」は継続して、よりよい病院への改善に向け努力していく所存です。



小特集

スキー スノーボードの外傷



当院におけるスキー スノーボード外傷の実態

いよいよ、ウィンタースポーツのシーズンとなりました。当院では数年前からスキー・スノーボード外傷の調査を行っています。調査開始当初、年々受傷者は増加していましたが、ここ数年受傷者数は600名前後で横ばいとなっています。以下は昨シーズンの調査結果です。

受傷者の7割が県外者でした。スノーボードによる受傷者は75%、スキーによる受傷者は20%で、その他の原因が5%となっています。受傷の原因は転倒38%、ジャンプの失敗33%、トリックの失敗13%、衝突15%となっています。受傷部位は、肩～上肢59%、下肢25%、脊椎13%、頭部・顔面3%となっています。

調査を開始した頃は、初級者が斜面で転倒しての外傷が多く、上肢の外傷が多い傾向でした。この傾向は大きく変わっていませんが、スキー場にジャンプやトリックの設備が常備されることによってジャンプ(トリックも含む)の失敗が多くなっています。スノーボードでは斜面での滑走の習得はスキーに比べて早いといわれており、競技のイメージ上ジャンプは必須となっ

ています。その他、ファンスキーなどスノーボード以外でもジャンプを行う競技もあります。ジャンプの失敗による受傷者の増加は、安易にジャンプを行う人が増えていることが原因と考えられます。

ジャンプの失敗に伴う外傷は、高所からの転落事故と同様に大きな外傷を伴います。また転倒と異なりジャンプの失敗による受傷部位は多岐にわたり、頭部、体幹、四肢のあらゆる部位に起こります。受傷者のなかには脊髄損傷など一生後遺症が残るものも含まれます。トレーニングもせずにイメージだけで安易にジャンプなど行うことは厳として慎むべきです。



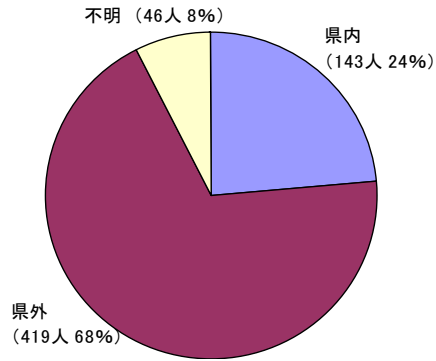
整形外科医長 七五三木 淳

スキー・スノーボード外傷受診者状況

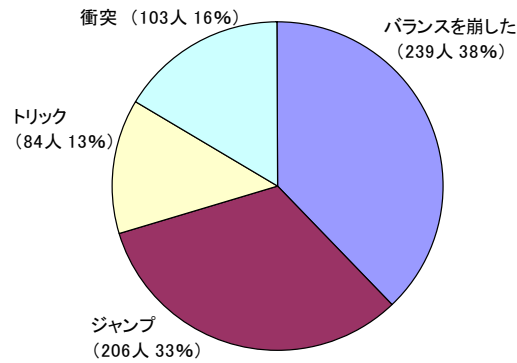
過去6年間の一覧表

	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
総受診者数	239人	324人	460人	561人	621人	608人
県外者の割合	37%	38%	73%	71%	71%	68%
スノーボード外傷者数	172人	236人	345人	440人	391人	461人
スノーボード外傷割合	70%	72%	75%	74%	63%	76%

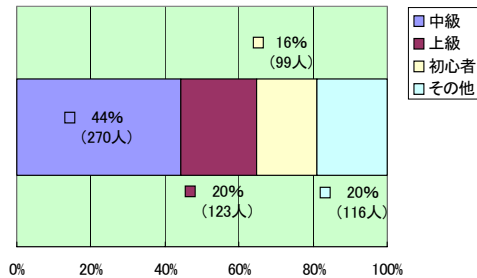
地域別受診者数



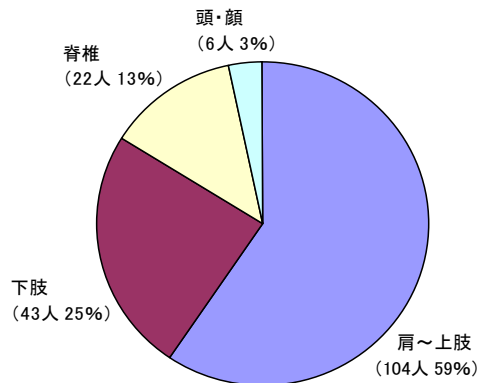
スキー・スノーボード受傷原因



スキー・スノーボード経験状況



骨折患者部位



利根中央病院における

NST活動を紹介



患者の皮下脂肪の厚さを測り、栄養状態を確かめる栄養療法チーム。沼田市の利根中央病院で

栄養療法 おいしい効果

県内20超の病院に拡大

入院日数や合併症減る

栄養士・看護師らチーム、食事内容助言

投薬や手術などの治療に比べて軽視されがたかった入院患者の栄養管理に積極的に取り組む病院が県内でも増えている。医師や薬剤師らによる専門の「栄養療法チーム」(NST)を設けた病院は20カ所を数える。点滴だけでなく流動食も採入れることで患者の栄養状態がよくなり、入院日数も減った。合併症が起りにくくなったりする効果が出てきている。

先駆例の一つ、利根中央病院(沼田市東原新町、都築院長)では、03年12月にNST活動を始めた。現在は看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師らを中心に取り、週1回、特に支援が必要な患者も入程度の栄養状態を見て回る。病状などに応じてパソコンで必要な栄養量を計算し、食事内容を主治医に助言している。

NST設立の中心メンバーで外科の都築医師(38)によると、手術後など、口から食事ができない患者の場合、静脈点滴をしてきたが、一般的なものでは栄養価が低く、高カロリーのものも通す管からは細菌が入り込んで合併症を引き起こすおそれがあった。NSTは、腹に開いた穴や鼻から胃や腸に通したチューブで、流動食を点滴から早期から始める。

NST活動に診療報酬が認められる可能性にらみ、県内でもこころを注ぎ、入院日数も平均で約1週間短くなったという。都築医師は「元気に帰る患者さんが増えている」と話す。

県内で初めて03年4月にNSTを始めた前橋赤十字病院(前橋市朝日町3丁目、宮崎瑞穂院長)でも、患者の栄養状態が改善して入院費用が下がったり、床ずれを起さなくなったりする効果が出ているという。

NST 70年代に米国で始まり、日本では90年代後半から広まった。院内感染防止や閉鎖的経腸栄養への効果も指摘される。日本静脈経腸栄養学会が講師を派遣するなどして設立を支援しており、すでに全国約270カ所を稼働施設に認定している。

2005年11月5日付
朝日新聞より

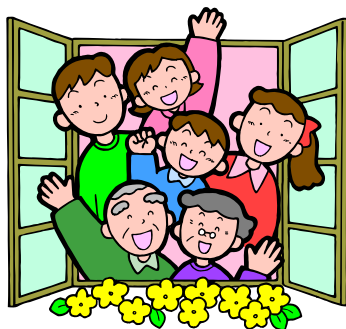
厚生労働大臣表彰受賞



精神科 国友貞夫医師

精神科国友貞夫医師が、長年の精神保健福祉事業推進の活動に対し、厚生労働大臣表彰を受けました。1974年以来30年間、当院での診療のかたわら、保健福祉事務所の嘱託医としての功績が評価されたものです。

国友医師は「生協病院の医師として、住民・組合員と一緒に、地域の保健活動の一環として活動してきた成果であり、組合員さんと共に喜びたい。」と話しています。



当科における スキー・スノーボード外傷 による入院例の検討



脳神経外科医長 笹口修男

過去2シーズン、当科で入院加療を要したスキースノーボード外傷は12例であった。スキー外傷4例、スノーボード外傷8例であった。受傷者は10名が県外者であった。受傷機転はスキー外傷ではジャンプ競技、スノーボーダーとの衝突、滑走中の転倒、小さなジャンプ台での転倒各1例。スノーボード外傷では滑走中の転倒3例、ジャンプ後の転倒5例であった。画像検査ではスキー外傷では小さなジャンプ台での転倒の例で脳挫傷を認めたのみであったが、スノーボード外傷においては頭蓋内出血性変化を5例で認め、うち4例はジャンプ後の転倒の症例であった。最終的にはスキー外傷の脳挫傷例で軽度の後遺症を認める状態で転医となったが、他は明らかな症状なく退院となっている。傾向としてはスキー人口とスノーボード人口の母集団がわからず、受傷例の4例と8例の差の比較は困難ではあるが、スキー外傷に比し、スノーボード外傷は頭蓋内に器質的变化を認めやすく、結果的にはスキー外傷で1例、後遺症を残すのみであったが、スノーボード外傷の方が重症化しやすい可能性が考えられた。また、受傷機転に付いてもジャンプ等の後の転倒が通常の滑走中の転倒よりも衝撃が強いと思われ、より注意を要すると考えられる。



「画論 The Best Image 2005」 (東芝社主催)

当院症例が 準優秀賞受賞



放射線科 科長
大屋成之医師

昨年12月、東京において東芝社主催の「画論The Best Image 2005」が開催され、当院の応募した症例が準優秀賞を受賞しました。画論とは、毎年全国の施設から応募された症例を公正に審査するもので、技術的・臨床的に優秀なものに対して表彰する催しです。今回、応募総数383症例のうち、当院症例がMRI部門での受賞となりました。

症例は転移性脊椎腫瘍による病的圧迫骨折を呈したもので、MRSにて腫瘍性病変であることが証明できた、というものです。MRSとは、関心容積中に含まれる物質をピークとして認識する検査手段です。脳腫瘍では、非特異的(原発、転移性に関係なく)にコリンが上昇することが知られています。脊椎腫瘍では、これまで特に報告されていなかった分野でした。当院で病的なL5圧迫骨折に対して、MRS試行したところ、明瞭なコリン信号が認識され、腫瘍病変とわかりました。圧迫骨折の原因疾患の鑑別は、通常のMRIでは判別困難なことがあり、本手法の斬新性が評価されたと自負しています。

近隣の先生方へ
病的圧迫骨折を疑う症例がありましたら、ぜひ当院MRIおよびMRS撮像をおすすめします。
なおMRSコストですが、通常のMRIに追加撮像するのみですので、フィルム1枚分しか追加負担はありません。
当院地域連携室への直通電話にて検査予約できます。

「画論 The Best Image 2005」 1.5テスラMR部門

受賞演題

症例名: 転移性骨腫瘍
装置名: EXCELART Vantage
使用コイル: ①CTL Spine Array
②φ20cmターゲットコイル
検査目的: 椎体圧迫骨折の性状分析
画像所見: L5椎体に圧迫骨折がある。椎体内はびまん性にTIWI低信号、T2WIやや高信号であり、軽度造影効果がある。S2にも同様な病変あり。L5病変へのMRSにて明らかなコリン信号が認められた。

撮像シーケンス: ①T2W1 FSE TR3500 TE108
FOV 30×30 Matrix 224×384 スライス厚 4mm
②MRS (PRESS) SE TR1500 TE136 FOV3.5×2.0 Matrix 1×1024 スライス厚 35mm NAQ256
テクニカルコメント: 病変椎体になるべく近いように、表面コイルを置いたこと。MRSはよりS/N上げるためTR1500とやや短く、一方NAQ256と多量した。VOIは椎体全域を含めるが、椎体外脂肪を含めないように注意した。
クリニカルコメント: MRI(単純+造影)のみでも腫瘍性病変による病的骨折と考察できるが、MRSでのコリン検出でより悪性腫瘍を疑うことができる。本例では造影しているが、MRSの所見があれば割愛も可能と考えられた。

※審査員コメント: 圧迫骨折の原因の鑑別は通常の検査法では困難なことが少なくなく、MRSによる鑑別の可能性を示している。

